

しまね読進協 第49号

発行日 令和4年2月28日

発行所 島根県図書館協会 読書推進運動協議会部会 (松江市内中原町 52 番地 島根県立図書館内)
ホームページ http://www.library.pref.shimane.lg.jp/?page_id=847

令和三年度

島根県図書館協会の主な事業

◎全国優良読書グループの推薦

出雲市立大社図書館読書会(出雲市)
↓ p 1

◎島根県読書推進運動功労者の表彰

今年度は該当無しでした。

◎「この本いいよ!」島根の高校生・高専生おススメの一冊」投稿の募集

応募数 十校 九十四作品
↓ p 1

◎読書体験記の募集

応募数 十四編 入賞三編
↓ p 2、3

◎第1回島根県図書館大会

中止になりました。

◎機関誌の発行・配布

「しまね読進協」第四十九号

全国優良読書グループの推薦

当会から、出雲市立大社図書館読書会(出雲市)を推薦し、公益社団法人読書推進運動協議会より表彰されました。平成六年五月に活動を始めて、月に一度の活動を、正月も盆も休むことなく今でも続けています。

「この本いいよ!」

「島根の高校生・高専生
おススメの一冊」

「この本いいよ!」とは、島根県内の高等学校・高等専門学校および特別支援学校に通う生徒の皆さんに呼びかけて、おススメの本を紹介コメント付きで募集し、応募作品を公表展示する島根県図書館協会の事業です。

今年度は十校から、計九十四作品の応募がありました。この中から十六作品のコメント及びイラストを、紹介された本とともに展示しました。作品を二点紹介します。

『鳥類学者だからって、
鳥が好きだと思ふなよ。』
(川上和人／著、新潮社)



僕、オガサワラヒヨドリ。小笠原ブランドでプレミアがついているけど、本州のヒヨドリとそんなに変わらない。

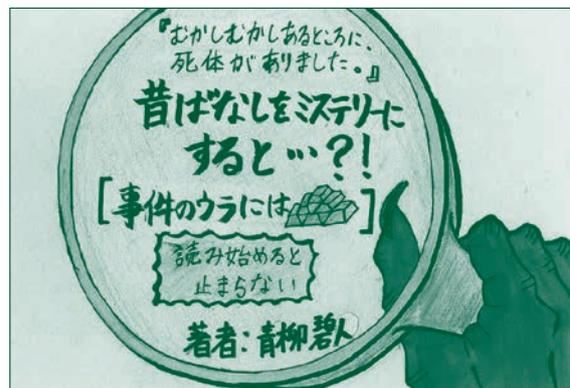
鳥の特徴を知ることができる上に、筆者の体験談も知ることができる本です。

第一章の3「最近ウグイスが気に入らない」その理由とは…。

一つ一つの話題が短いので休憩時間に読むのがおススメです。ぜひ読んでみてください。

(1年 M, T)

『むかしむかしあるところに、
死体がありました』
(青柳碧人／著、双葉社)



(2年 H・U)

読書体験記



県内から読書体験記を募集したところ、応募数は十四編ありました。その中から優秀作品三編を紹介します

本は人を繋ぎ、人は本を繋ぐ。

加納 由佳 (出雲商業高等学校)

私は本と一緒に育ちました。

産まれて数ヶ月した頃から父母が夜に絵本の読み聞かせをしてくれました。毎日の楽しみだったのでその頃から本が好きになりました。今でも文章や絵を覚えています。たとえ同じ本でも飽きずに楽しく聞いていた記憶があります。

小学生になり自分で本が読めるようになると様々な種類の本に触れました。私の大の苦手な「蛾」の事を調べようと図鑑を開きました。社会で習った歴史上の人物を詳しく知りたくて生い立ちを調べました。吹奏楽部に入部する前に興味のある楽器について調べたり自由研究で「雲」の写真集をみました。数えればきりがありませんがたくさんの本の種類の中で昔から大好きなのは、小説や物語です。それにはきっかけがあります。それは小学校で図書館の方にボランティアの読み聞かせをしてもらったからです。小学校では毎週一回朝の十五分で物語を読んでもらいました。長編の本は何ヶ月もかかります。普段は本を読まない友人もこの時間は熱心に聞いていました。読んでいただいた本が気に入るとそのシリーズの本を図書室に探しに行きます。そして私達の「図書室」はわくわくする場所でした。私の小学校の読書ヘルパーさんは図書室でたくさんのイベントをしてくれました。本の中からクイズを出したり、スタンプラリーをしたり。窓ガラスには季節の飾り付けがしてあり、読みたくなるような本が展示してありました。誰もが図書室と本を好きになっていきました。

中学生になり学校の読書ヘルパーさんにリクエストする本の相談をしたり、借りた本の感想を聞いてもらったり、新しく入った本で私が好きそうな本を勧めてもらいました。部活が始まり自由に使える時間が少なくなっても本と離れずいられました。

私は「読書」を通じて気付いた事があります。読書は様々な人との仲を深めることができます。私の叔父はたくさんの本を読みます。私は叔父の好きな歌や俳優をきいても分かりません。でもお互いに読んだ本の話題になると話がつきません。誰もが感動したり心に残る本は流行に左右されることなく世代を超えて読まれるのです。

読書好きの友人ともよく本の感想で盛り上がります。共感したり反論したり。次第に相手の内側がみえてきます。読んだ後に二人の感想を伝え合うのが楽しみでした。心に残る本があればお互い勧め合います。そうすると自分では選ばない本を手にする機会ができます。それが新しい発見になることもあるのです。

私は運がよく、たくさんの人達に本の素晴らしさを教えてもらいました。だから一冊でも多くの本を読み続けるつもりです。もし私に子供がきたら私がしてもらったように絵本の読み聞かせからはじめようと思います。

「これ読んで！」

佐藤 恵 (出雲市)

我が家で夜になると聞こえてくる「これ読んでー」の声。晚ご飯が終わって、歯みがきも終わると日課の読み聞かせが始まります。

七歳の長女、双子で五歳の次女と長男に、毎日二冊の読み聞かせを夫がしています。いつも時間になると次女と長男が一冊ずつ本を選び、「これ読んでー」と夫に渡します。たまに「それは私が選びたかったのに！」「それは今日は読まない！」なんてケンカにもなりますが、「両方読むからケンカしなくてもいいでしょ。」と長女の声。気持ちが収まると皆が読み聞かせの定位置のソファに寄りそって、いよいよ、はじまります。パラッと本がめくられると、子供三人は本の世界に入っていきます。長女と次女は、静かに耳を傾けるタイプ。長男は、ついストーリーや主人公の動きが気になって、お話しの途中で「これはこうだよ！」なんて自分の気持ちをお口にします。読み聞かせの中でも個性が見て取れて面白いものです。二冊の本の読み聞かせは、子供にとってもあっという間のようで、終わってしまうと、「ええ、早いよ。」「もう一冊。」なんてブーイングも起きますが、お楽しみはまた明日と、眠りにつきます。あきらめきれない長男は、たまに本の置き場に行き、本をパラパラめくって、まだ自分

で文字を読むことが出来ないのですが、絵を見て何やら、ぶつぶつと口にしてるなと思ったり、自分で絵の内容にストーリーをつけている様でした。それが割と絵本の内容とマッチしている事も多々あり、きちんと絵の内容から、どんなお話しなのかを読み取れているんだなと感心もします。我が家の子供達は割と早起きで、起きると一緒に遊んでいきます。ある日も朝早く起きて、別室から話し声があり覗きに行くと、七歳の長女が双子に本の読み聞かせをしてやっていました。小学一年生になり、すっかり本を読むのもスラスラと板に着的な長女。「これが読みたいの、読んであげるから持ってきておいで。」とすっかりお姉さんになったのだなと感じます。

こうして本を通して生まれる親と子供のコミュニケーション、ストーリーを読み取る力や楽しい、悲しい、嬉しいといった様々な感情を刺激してくれる本の存在は、本当に良いものだなと感じます。子供達も本好きな子に成長してくれているので、これからも成長と共に様々な本に出会い、感情豊かに育ってくれたらと思います。いずれは、読み聞かせを終える日が来るとは思いますが、それまではいつもの「これ読んでー」の時間を大切に。



本と幸せ

西長 遥香 (出雲商業高等学校)

私は、幼いころから読書をするのが好きでした。口下手で人見知りだった私を、物語はいつでもどこでも広い世界へ導いてくれました。そんな私は、中学生の夏休みには近所の図書館へ通い詰め、当時好きだった恋愛小説を読み漁りました。そして、自分が気になっていた小説はほぼ読破してしまっただけで本が大好きだったのです。しかし、高校生になってからは、図書館へ行く機会が減り、それと同時に、本へ触れる機会も減ってしまいました。

ある日、私は久しぶりに行った図書館で、短めのヨーロッパの児童小説を借りました。本への興味が薄れていたため、あまり分厚い本を読む気にはなれなかったのです。その本は児童向けだったので、字も大きく、内容もとても読みやすくて、すぐに読みふけてしまいました。その本には、見知らぬ田舎で、都会から一人でやってきた少女が親せきに見守られながら、力強く成長していく過程が綴られていました。広がる大自然の描写や、子ども独特の感性がみずみずしく書かれているその小説を読んで、私は、忘れていたあの物語を読んだドキドキやワクワクを思い出しました。それとともに、幼いころには気づくことのできなかった、物語の表現力のすばらしさを感じました。例えば、雪で覆われた草原もただそのまま書くのではなく、「一面白銀の世界に

なったようだ」などと、読者の頭の中で想像が膨らむ表現が、そこかしこにちりばめられているのです。それはまるで、文字でできた宝箱のようで、本を開くたびにワクワクしてしまいます。

私は、そのような表現にたくさん出会ったことで、私の世界を見る目が変わってきました。本を読まなくなっていたころは、ただ目的を果たすのに夢中で、周りを見る余裕がありませんでした。しかし、また本を読むようになってからは、道端に生えている花や、青空をよく見るようになりました。何気ない日常の隅にある事柄をよく見てみると、今まで感じなかった小さな幸せがあることに気がつくようになりました。「今日はきれいな花を見つけたことができた。幸せだな」「今日はすごく近くを飛行機が飛んでいる。何か良いことが起きそう」そんな小さな幸せが、すごく身近にあることは、本を読まなければ気づくことのできなかった幸せです。つらいことや苦しい時があっても、そんな小さな幸せを見つければだけでも救われます。

私は、本に出会うことで生き方が変わったように感じています。小さな幸せが自分のすぐそばに、いつでも存在することに気づいてからは、前向きに生きることができるようになりました。そのことに気づかせてくれた本は、私にとって永遠の先生であり、相談相手であり、友達です。本が教えてくれた小さな幸せを、宝物がそこかしこに存在していることを忘れずに、これからも、大人になっても生きていきたいと思えます。

令和三年度

島根県内の読書普及の 主なトピック

新型コロナウイルス感染症の影響

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策のため、活動が大きく制限されました。適切な措置をとりながら、活動が行われました。

子どもの読書週間

毎年、「子どもの読書の日」から「こどもの日」を挟んだ二十日間（四月二十三日～五月十二日）は、公益社団法人読書推進運動協議会が主催する「こどもの読書週間」です。この期間中は、図書館や公民館、学校などで、子どもの読書に関わるイベントが開催されます。

多くの図書館で、絵本・児童書の展示や、本のセット貸出が行われました。ほかには、みんなで作るこいのぼり（飯南中央、頓原）や、読書の大切さや家庭における本の大切さについてのリーフレットを作成して在宅児、保育所、小学生に配布する（かわもと）、など特徴ある活動も行われました。

読書週間

毎年、文化の日の前後二週間（十月二十七日～十一月九日）は「読書週間」です。この期間中、全国の図書館など、読書に関する施設では、市民の読

書を応援する取り組みが行われます。

当協会は、期間中に、高校生のおすすり本を島根県立図書館内で展示したり、読書体験記の募集を行って、読書活動の普及に努めました。

各市町村の図書館では、図書館まつり、おはなし会、本のリサイクル、展示などのイベントが、新型コロナウイルスの対策を徹底したうえで、開催されました。

ほかにも、子ども読書推進フェスティバル（益田市）、図書館スタンラリー（出雲市七館合同企画）夜のイベント寄席、野外朗読祭（浜田中央）、出版社企画のなごときイベント（旭、三隅）、図書館川柳の募集（飯南中央、頓原）、司書体験講座（大東、本のお医者さん（仁摩）など、ユニークな活動が行われました。

全国高等学校ビブリオバトル2021 島根県大会

ビブリオバトルとは、オススメの本を紹介し合っで、チャンプ本（一番読みたくなった本）を決定する「知的書評合戦」です。

令和三年十二月十一日に、くにびきメッセ（松江市）で、「全国高等学校ビブリオバトル2021島根県大会」が開催されました。（主催：全国高等学校ビブリオバトル2021島根県大会実行委員会）今年度の大会には、十名の高校生が発表者（バトルラー）として、十五名の高校生が運営サポーターとして、それぞれ参加しました。

コロナ禍の中でしたが、熱い戦いが繰り広げられ、益田高等学校二年の乾華（イヌイハナ）さんが紹介した『そして誰もいなくなる』（今邑彩著、中央公論新社）がチャンプ本に決定しました。

島根県図書館大会の中止

第一回島根県図書館大会は、当初令和三年度に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期になり、令和三年十月の開催をめざしていましたが、実施の見通しが立たず、中止としました。

今回の大会では、各加盟団体から、次の事例報告を予定していました。（団体名、所属、氏名、テーマ）

- 1 島根県公共図書館協議会
益田市教育委員会 田中健人氏
「益田市立図書館と市民との協働による新たな図書館のカたち」
 - 2 島根県大学・高等専門学校図書館協議会
島根大学附属図書館 青柳和仁氏
「島根大学附属図書館デジタルアーカイブのI I I F 対応」
 - 3 島根県書店商業組合
今井書店 井上一真氏
「わくわく学校図書館フェア」で図書館とつながる 図書館をつなげる」
 - 4 島根県学校図書館協議会
松江市立島根小学校 安達百合子氏
「島根小学校における読書活動の実践」
 - 5 島根県高等学校図書館研究会
平田高等学校 舟木司氏
「平田プラタナスプランとひろこう図書館の連携」
- 五人の方の発表内容を、当協会のホームページで公開しています。

島根県図書館協会

で検索

http://www.library.pref.shimane.lg.jp/?page_id=847